

東通村と共に歩む東通原子力発電所

～越善靖夫東通村長との新春対談～

東通原子力発電所では、新年にあたり、越善靖夫東通村長をお迎えしての「新春対談」を実施しました。「東通村と東通原子力発電所の共生」をテーマに、技術系の実務を担当する女性社員3名が、東通村の展望や発電所の活動状況などについて村長と対談しました。

新春対談の様様について、お伝えいたします。

～安全・安定運転の継続と 安心して働ける職場環境づくりが大切～

【紺野】東通原子力発電所は建設段階から、安全で品質が高く、作業員の被ばく線量の少ない信頼性の高い発電所となるよう「クリーンプラント」活動を行ってきました。毎日こつこつと取り組んできたことが成果として現れ、第1回定期検査時に作業員が受けた被ばく線量の総量が、世界の沸騰水型軽水炉(BWR)で最も低い値となりました。このことが、国際機関※ISOE委員会より評価され、昨年の12月24日に表彰を受けました。

現在、所員一人ひとりが取り組んでいる活動も、2・3年後に反映されることを見据えて業務にあたる事が重要と考えています。

【越善村長】東北電力1号機が営業運転を開始して以来、大きなトラブルもなく安全かつ安定した運転を継続されており、東北電力・関係者のご努力に感謝しています。

建設当時から取り組まれていた様々な活動が、安全・安定運転、そして安心して働ける職場環境を作り上げているものと思います。国際機関※ISOE委員会から表彰を受けたことは、立地村としても大変喜ばしいことであると感じています。

働く人が安心して働ける環境づくりは、トラブルのない安定した発電所に繋がると思うので、東通村としても発電所の環境づくりに積極的に協力していきたいと思います。

【司会】第3回定期検査が無事終了し、一安心しているところではありますが、所員一同、気を緩めることなく、引き続き、安全・安定運転に取り組んでまいります。

※「ISOE」とは「職業被ばく情報システム」の略称です。

～「Week Around H プロジェクトチーム」 の活動で東通村を元気に～

【石垣】東通村と東京電力・東北電力の若者で構成されている「Week Around H プロジェクトチーム」という活動に私も参加しています。どうすれば東通村を活性化できるかを考え、中心地に賑わいを創出しようと様々な行事を企画・開催するなどの活動を行っています。

今年度は「ガーデンパーティー」「クリスマスツリー点灯式」の2つのイベントを開催し、東通村内外の多くの方々に参加していただきました。来場されたお客さまから「素晴らしい企画をしてくれてありがとう」と感謝の言葉をいただき、楽しく過ごしていただけたことに、メンバー全員、喜んでいました。

この活動が、多くの東通村の方々や発電所員に広く知れ渡り、メンバーも増え、東通村を盛り上げることが出来れば願っています。

【越善村長】東通村に住んでいる若い方々自身が、東通村を盛り上げようと様々な行事を企画、運営していただいていることを、とても心強く思っています。若い人が意見を出し合い、そして参画することが大事であり、周りの方々に刺激を与えることになるはずです。村としても次にどんな企画が出てくるのが楽しみにしています。

～子供たちの夢が膨らむ 幼小中一貫教育体制～

【石垣】越前村長にお聞きしたいことがあるのですが、小中学校が統合により校舎が新しくなり、校舎のお披露目に私も参加させていただきました。様々な設備が設置されている教室などを見て、東通村は教育に力を入れている村なんだと、改めて実感いたしました。将来的には幼小中一貫教育を目指していらっしゃるとお聞きしましたが、これまでの取り組みと今後の展望についてお伺いしたいのですが。



【越善村長】平成16年に東通村総合教育プランを策定いたしました。これは、学力の充実を掲げ、乳幼児段階から中学校卒業まで一貫した教育を行うというものです。昨年の4月から小中一貫教育がスタートしました。東通村独自に教職員を採用したり、学級の少人数制や教科担任制、英語教育でも小学校1年生から英語科を正規教科として設置しています。また、東通村の郷土理解や原子力・エネルギーに関する教育などを行う東通科の設置など、総合教育プランに基づいた施策を展開しています。

引き続き、村内にある幼稚園・保育所などを統合することで、幼小中一貫教育が整う形となります。東通村の次世代を担う子供たちが夢と希望を持ち、国内はもとより国際社会において大きく羽ばたいてもらいたいと思っています。

これまで東北電力には次世代層支援活動として、文化講演会やバレーボール・陸上競技などのスポーツ教室を開催していただき、とても感謝しています。これらの活動が、子供たちの心を豊かにするとともに、一流の講師・選手と触れ合うことができる喜びや希望、誇りに繋がるものと考えております。

【司会】東通村で育った子供たちが将来、様々な知識・技術を身につけて東通村に帰ってきてくれることを願うとともに、私たちと一緒に働いて発電所を支えてくれることなども期待しています。

～大いに盛り上がった 「よさこい来さまい祭り」～

【大図】私は昨年の「よさこい来さまい祭り」に踊り手として初めて参加しました。踊りを覚えることがとても大変でしたが、まつり本番で踊り終えた時には、爽快感・達成感を感じました。

祭りに参加して印象的なことが2点あります。ひとつは、役場の方や東通村内外から一般参加者で構成されている「和心伝心」チームの踊りが素晴らしいことです。踊り手の統一感があり、たくさんの練習を重ねたんだと感心しました。もうひとつは、幅広い年代の多くの女性の方が、まつりに積極的に参加されていたことです。

地域の行事に参加している方々の生き生きとした姿を見られ、私も頑張らなくてはいけない気持ちになりました。



対談者ご紹介



越善 靖夫 東通村長



放射線管理課 化学グループ
紺野 敦子(福島県福島市出身)



放射線管理課 化学グループ
石垣 昌代(宮城県仙台市出身)



放射線管理課 放射線管理グループ
大図 美和(埼玉県狭山市出身)

【司会】東通原子力発電所 広報課長 及川 芳樹

す。さらなる発展のためにも、東北電力1号機の後続基が計画通りに進められることを望んでいます。

～東通村の素晴らしさを 伝えていきたい～

【紺野】私が東通に来ていいなと思ったことのひとつですが、春に水芭蕉が道路沿いに咲いていることに驚き、その場で写真を撮り、友達に見せたことがありました。今日は、東通村が自然豊かで、とても住みやすいことを再認識するとともに、今まで知らなかったことについて、たくさんお話を伺えて有意義でした。今後も東通村の良さを友人知人に伝えていきたいと思います。

【石垣】教育や福祉・医療の充実に重点をおいて展開なさっていることを聞き、今まで以上に、東通村の住みやすさを実感することができました。これからも東通村での生活を満喫していきたいと思います。

【大図】東通村のような自治体独自の教育方針が、他県にも広まり、子供たちの教育環境が良くなればいいなと思いました。これからも東通村とは仕事、そして私生活の面でもお世話になりますので、よろしく願っています。

【越善村長】村民に「いつまでも住んでいたい」と思っていたら、そして周りからは「住んでみたい」と思っていたらいいな村を創っていききたいと思います。電力会社や関連・協力企業の方々は、様々な地域で生活してきており、まちづくりのための幅広い知識や経験をお持ちの方が、多くおられると思います。ぜひ、その経験を東通村で活かしていただき、村民と一緒に頑張ってまちづくりにご協力していただければと思います。

発電所を支えるのは発電所員一人ひとりなので、皆さんが安心して業務に携われる環境づくりを、行政そして東通村民一人ひとりが支えていくことが、本当の意味での「原子力発電所と共生する」ことだと思っていますし、村全体で温かく見守っていくことが、安全・安定運転に繋がるものと思っています。

今後も東通村・東通原子力発電所が手を携え助け合いながら共に歩んでいきたいと思います。

【司会】貴重なお時間をいただきありがとうございました。普段なかなかお会いすることが少ない村長と直接お話しする機会をいただきまして、将来に向けての勇気をいただいた気がします。今後も安全最優先で安定運転を継続してまいります。また、東通村と共生するという気持ちを新たに、これからも頑張ってください。よろしくお願いします。



【越善村長】地域の皆さんに楽しんで参加していただけることが大事ではないかと考えています。発電所員の方一人ひとりが、東通村民であるとの自覚をもって参加していただければ、村民との交流も広がり、東通村と発電所との強い絆がさらに強くなっていくはずです。



東通村には、子供から大人まで幅広く楽しんでもらえる様々な行事や、能舞や田植え餅つき踊りなどの郷土芸能がたくさんあります。発電所の方々は、村内の各種行事に積極的に参加し、村民との交流を広げ、刺激し合いながら、さらに強い絆を育み、村の発展を共に築き上げていただきたいと思っています。

～原子力発電所と共生する まちづくり～

【司会】私たち発電所員は「村と共に歩んでいく」ことを考えて行動するよう努めていますが、まだまだ不足しているところもあるかと思います。私たちに対してお気づきの点や、村の将来の展望についてお聞かせください。

【越善村長】東通村は「食の供給基地である」という考えを持った第一次産業中心の村です。また、第一次産業の発展を図るとともに、女性の働きやすい環境、子育てしやすい環境、教育環境等の整備も不可欠であると考えています。市町村合併はせず、原子力発電所との共生を図りながら、さらなる村の発展、そして村民が潤いのある生活を営むことができる生活環境の向上を目指した行政運営に取り組んでいます。次世代を担う子どもたちには資格や学力を身につけてあげさせたい。競争の厳しい世の中で、たくましく生きていくためにはしっかりとした環境の中で育ち生活していただきたい。その環境を整えるのが行政の役目です。

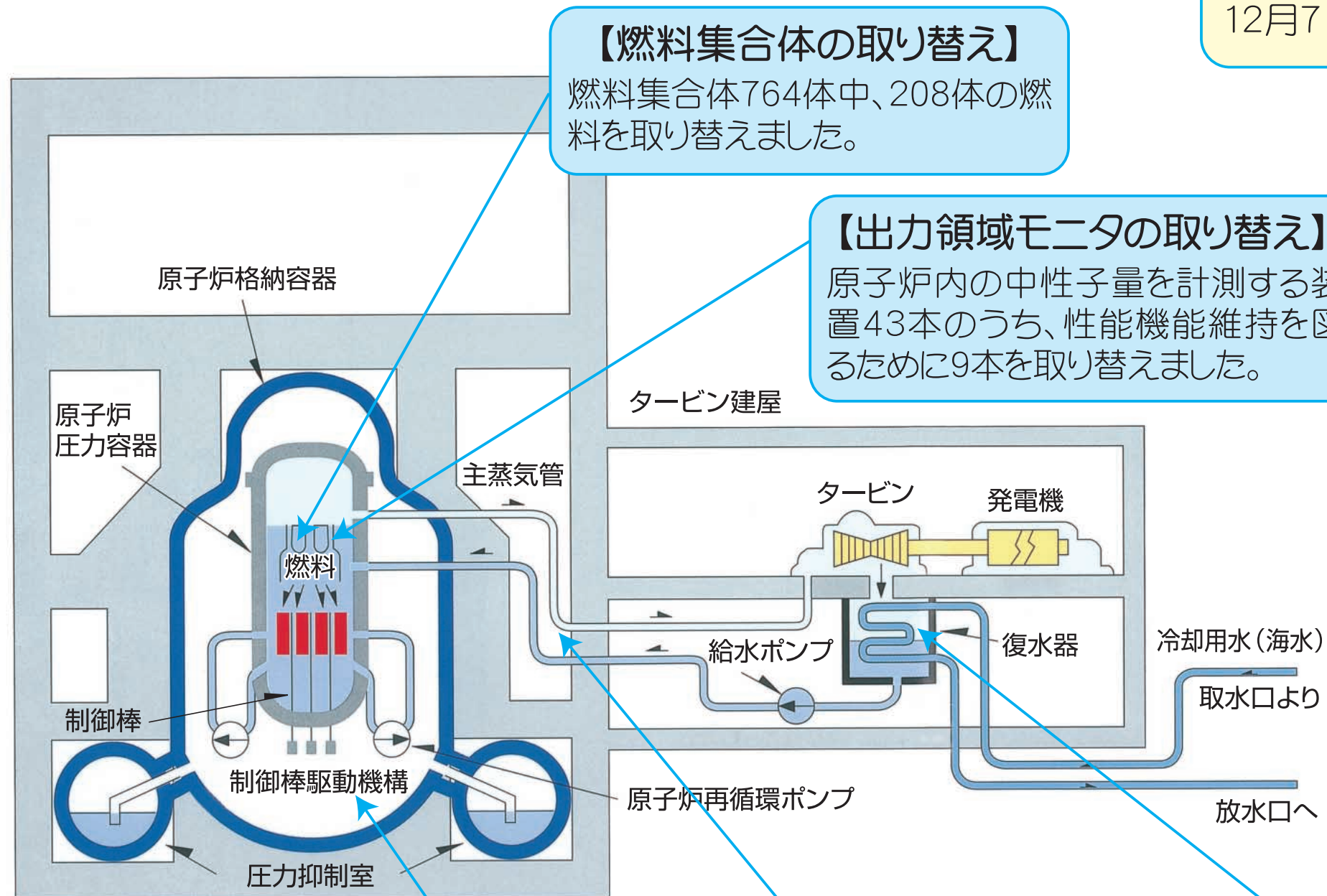
そのためにも原子力発電所と共生し、様々な環境整備を進め、「発電所を誘致して良かった」と思える村づくりをしていきたいと考えています。

発電所員の方々と長年築いてきた信頼関係が、東通村の発展にも繋がっていま

第3回定期検査が終了し、営業運転を再開いたしました ～これからも安全最優先で、安全・安定運転に努めてまいります～

東通原子力発電所1号機は、平成21年9月12日(土)より第3回定期検査を実施してまいりました。安全を最優先に点検作業を行い、平成22年1月7日(木)に経済産業省による最終検査に合格し、定期検査を終了しました。

今回の定期検査で実施した主要な項目についてご紹介いたします。



【燃料集合体の取り替え】

燃料集合体764体中、208体の燃料を取り替えました。

【出力領域モニタの取り替え】

原子炉内の中性子量を計測する装置43本のうち、性能機能維持を図るために9本を取り替えました。

【主変圧器の昇圧工事】

電力の安定供給を図るため、主変圧器などの電圧を、27万5千ボルトから50万ボルトへ昇圧する工事を行いました。



【制御棒駆動機構の点検】

制御棒を動かす装置185体のうち26体を取り外し、そのうち14体について分解点検を行い、健全性を確認しました。残りの12体については、予備品と取り替えをしました。

【配管肉厚測定検査】

原子炉系、タービン系配管の約1,300箇所について肉厚測定を行い、健全性を確認しました。

【復水器細管の点検】

タービンで仕事を終えた蒸気を冷やすための海水が通る細管28,168本のうち、10,848本について点検し、健全性を確認しました。

**当発電所では協力会社の皆さんと共に、安全最優先に定期検査を進めてまいりました。
これからも安全・安定運転に努め、地域の皆さまに安心していただける発電所を目指してまいります。**

発電所の状況等につきましては、当社ホームページの「原子力・環境・エネルギー-原子力情報-東通原子力発電所」でご覧いただけます。
アドレスは<http://www.tohoku-epco.co.jp/genshi/higashi/index.html>です。

発電所トピックス1 冬道運転の基本原則を再認識 「交通安全大会」実施

東通原子力発電所では、平成21年12月10日(木)、冬期の交通災害防止を目的として「交通安全大会」を実施し、発電所で働く一人ひとりの交通ルールの遵守や交通マナー向上など交通安全に関する意識の高揚を図りました。

この大会では、むつ警察署 須藤 康清 交通課長を講師としてお招きし、青森県内の交通事故・交通違反の状況や飲酒運転撲滅への取り組み等について講話をいただきました。

また、大会出席者全員で、安全宣言と交通安全スローガンを唱和し、冬期の交通災害防止、無事故・無違反を誓いました。



発電所トピックス2 作業員の被ばく線量低減対策が評価され 国際機関ISOEより表彰を受ける

東通原子力発電所は、平成21年12月24日(木)、平成19年1月から6月に実施した第1回定期検査時に放射線業務従事者が受けた被ばく線量の総量が、0.14人・シーベルトで、世界の沸騰水型軽水炉(BWR)の中で最も低い値であったことから、国際機関であるISOE(職業被ばく情報システム)委員会より評価、表彰を受けました。



水町 渉 ISOE委員会第7代議長(写真:右)から表彰状を受け取る津幡所長

当発電所ではこれからも、作業員の放射線被ばく線量低減への取り組みを継続するとともに、発電所の安全・安定運転に努めてまいります。

発電所トピックス3 新しい年 新たな気持ちで 「安全祈願祭」実施

東通原子力発電所は、平成22年1月13日(水)、むつ市田名部神社において、今年一年の安全・安定運転の継続とゼロ災害を祈念するため、安全祈願祭を行いました。

平成17年12月8日の営業運転開始以降、国への報告対象となるトラブルもなく、無事に5年目を迎えることが出来ました。

これからも発電所員・協力会社の皆さんと一致団結し、安全を最優先に取り組んでまいります。



今年一年の安全を祈る(むつ市田名部神社にて)